

編集後記

本研究誌の願いは「現場に届ける」です。今号も、最も現場に届けたい実践を巻頭論文にすることができました。茅野徑子他論文です。全国看図アプローチ研究会としては取り組みが手薄だった英語教育についての実践です。看図アプローチや看図作文の可能性を大きく広げてくれる論文です。一読ください。

「看図アプローチ法学教育プロジェクト」も順調に動いています。このプロジェクトが動き始めて、まだ半年弱ですが、探究したいことが次々と出てくるので、論文も次々と生まれてきます。本号では2編発表しています。コロナの感染状況が落ち着かないので実際の授業実践ができていません。しかし、本番の授業実践を行う前に確認しておきたいことがたくさんあります。それらを2編の論文に「研究ノート」としてまとめておきました。

「看図アプローチの法学教育への活用(Ⅲ)―社会的迷惑行為を題材にして―」を脱稿後、共同研究者の大山和寿から次のようなコメントをもらいました。

「鹿内先生のご論旨は、法のやれることや法のなすべきこととその限界を学習者に考えさせる授業開発ということだったのかもしれませんが、漫然と読んでしまうと、法に万能感があるお考えのように受け取られかねません。この点が気になりました。」

こういう「気になったところ」が次の発展への手掛かりになります。「看図アプローチの法学教育への活用」研究はさらに発展していきます。

文責 鹿内信善

全国看図アプローチ研究会研究誌 9 号

発行年月日 2021年8月31日

編集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員

石田 ゆき

伊藤 公紀

鹿内 信善*

萩尾耕太郎

山下雅佳実

渡辺 聡

(* 印は編集代表)

発行 全国看図アプローチ研究会

kanzu-approach.com



事務局長 山下雅佳実 (中村学園大学短期大学部)

編集長・DTP 石田ゆき